

NHO フェローシッププログラム申請書

1. プログラム名：網膜硝子体疾患プログラム
2. 診療科：眼科
3. コースの概要
プログラム期間中、眼科にて、糖尿病網膜症、網膜剥離などの網膜硝子体疾患の症例を経験する。
4. 目標
眼科、網膜硝子体疾患における総合的な診療能力を高め、問題解決能力を習得することを目標とする。
<短期目標>網膜硝子体疾患の診断に必要な基礎知識、検査法、また、治療法を習得することを目標とする。留学者のレベルに応じて、手術手技を経験することも目標とする。
<長期目標>眼科の専門知識と幅広い臨床能力を取得し、眼科医としての全人的な育成を行う。眼科診療における問題点の発見と解決能力を身につける。
5. 取得手技
 - ・ 外来、入院患者担当、カンファレンスを通じて網膜硝子体疾患の診断に必要な基礎知識を習得。
 - ・ 精密眼底検査、細隙顕微鏡検査、視野検査に加え、各種光干渉断層計(OCT)検査、FA/IA 眼底造影検査、超広角眼底撮影、眼底自発蛍光検査、多局所網膜電図検査、視覚誘発検査などの網膜硝子体特殊検査手技、評価法を学ぶ。
 - ・ 硝子体手術やバックリング手術といった観血手術、レーザー手術、硝子体注射、眼周囲注射、薬物治療などの治療適応を学ぶ。
 - ・ また、留学者のレベルに応じて、介助者、執刀者として手術手技を経験する。
 - ・ すでに網膜硝子体手術手技習得者で、小切開硝子体手術、眼内内視鏡手術を学びたい留学者には、ステップバイステップでその手技を教授したい。

6. 期間

1-6ヶ月

7. 募集人数

同時期は1名

8. 診療科の実績と経験（術者もしくは助手）目標症例数（任意）

網膜硝子体手術 年間約150件

レーザー網膜光凝固術 年間約300件

FA/IA眼底造影検査 年間約250件

9. 各診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 4名

診療科研修の指導にあたる医師 4名

主として研修指導にあたる責任医師 喜多美穂里（診療科経験年数 38年）

10. コンセプト

網膜硝子体疾患は白内障に比して稀な疾患で、専門性が高いため、その診療能力向上には、それを専門に行い、検査・治療機器・設備が整っている施設での研修が効率的である。特に、眼内内視鏡併用小切開硝子体手術を専門とする施設は世界的にも数少ない。研修者の経験・能力、ニーズに合わせて、疾患の基礎知識習得を主としたコース、検査手技・評価法習得を主としたコース、手術参加を主としたコース、眼内内視鏡習得コースなどが設定可能である。

11. その他

関連領域の研修に関しては当科プログラムを習得し、他科での研修を希望する者には考慮。共通領域研修については院内開催の卒後研修や院外セミナー・研修・講習会に自由に参加可能。